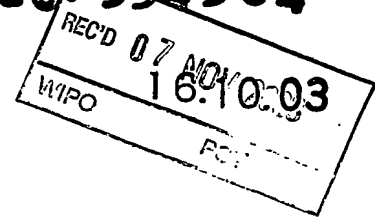


Rec'd PCT/PTO 09 MAY 2005
PCT/JP 03/13223

10-534364



日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2002年11月26日

出願番号
Application Number: 特願2002-342442
[ST. 10/C]: [JP 2002-342442]

出願人
Applicant(s): テルモ株式会社

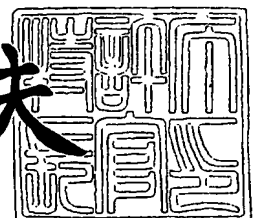
**PRIORITY
DOCUMENT**

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1 (a) OR (b)

2003年 8月 8日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



Best Available Copy

出証番号 出証特2003-3063982

【書類名】 特許願

【整理番号】 14P252

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A61M 1/02

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県富士宮市舞々木町 1 5 0 番地 テルモ株式会社内

【氏名】 菱川 資文

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県富士宮市舞々木町 1 5 0 番地 テルモ株式会社内

【氏名】 横田 崇之

【特許出願人】

【識別番号】 000109543

【氏名又は名称】 テルモ株式会社

【代表者】 和地 孝

【代理人】

【識別番号】 100091292

【弁理士】

【氏名又は名称】 増田 達哉

【電話番号】 3595-3251

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007593

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9004990

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 輸液チューブおよび輸液チューブセット

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 輸液の流路を構成するチューブと、

前記チューブの一方の端部に設けられ、雄コネクタおよび雌コネクタを有するコネクタと、

前記チューブの他方に設けられ、輸液が収納された収納部側に接続される接続部とを備えることを特徴とする輸液チューブ。

【請求項 2】 前記雄コネクタの軸と、前記雌コネクタの軸とが、略一致する請求項 1 に記載の輸液チューブ。

【請求項 3】 前記コネクタは、流路を切り換える流路切換機能を有する請求項 1 または 2 に記載の輸液チューブ。

【請求項 4】 前記コネクタは、前記チューブの内腔と、前記雄コネクタの内腔と、前記雌コネクタの内腔との連通パターンを選択し得るよう構成されている請求項 1 または 2 に記載の輸液チューブ。

【請求項 5】 請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の少なくとも 1 つの輸液チューブと、

前記輸液チューブの前記コネクタの前記雄コネクタまたは前記雌コネクタと接続し得る輸液投与部側コネクタを有し、患者に対し、輸液を投与する輸液投与部とを備えることを特徴とする輸液チューブセット。

【請求項 6】 前記輸液投与部は、除菌用のフィルターを有する請求項 5 に記載の輸液チューブセット。

【請求項 7】 前記除菌用のフィルターは、前記輸液投与部側コネクタより下流側に設けられている請求項 6 に記載の輸液チューブセット。

【請求項 8】 前記輸液投与部は、前記除菌用のフィルターの下流側に混注口を有する請求項 6 または 7 に記載の輸液チューブセット。

【請求項 9】 前記輸液投与部側コネクタに、一端側に輸液容器に接続される接続部を有するチューブの他端側が接続される請求項 5 ないし 8 のいずれかに記載の輸液チューブセット。

【請求項10】 前記輸液投与部側コネクタは、一端側に前記輸液容器とは別の輸液容器に接続される接続部を有するチューブの他端側に設けられたコネクタと、前記輸液チューブのコネクタとを同時に接続し得るよう複数に分岐している請求項5ないし8のいずれかに記載の輸液チューブセット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、輸液チューブおよび輸液チューブセットに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来の輸液セット（輸液装置）では、輸液チューブの患者に接続する側の端部（先端部）に雄ルアーコネクタが設けられている。このため、複数の輸液ルートを確認するためには、患者側のチューブに、三方活栓や多連活栓等を設け、輸液ルートを増設可能な状態、すなわち、複数の前記輸液チューブを接続し得る状態にする必要があった（例えば、特許文献1参照）。

【0003】

例えば、輸液ルートの途中に三方活栓を設置した輸液セットが市販されているが、必要とされる輸液ルートの数は患者やその容態によってまちまちであり、予め準備しておく輸液ルートの必要数はわからない。このため、輸液ルートの使用数について、多くの患者のデータを収集し、これらから平均使用数を求め、その平均使用数よりも1つ、または2つの、輸液チューブを接続し得る予備ポートを設けて輸液ルートを構成することが一般的である。

【0004】

ところが、予備ポートを必要とする患者は、容態の急変を起こす可能性が高い患者の場合が多く、輸液療法の対象患者の大半は、予備ポートを必要としないが、少数の患者のために予備ポートを備えた輸液セットを用意しておかなければならず、そのために、輸液セットのコストを高くするか、または、病院内の輸液セットの品種を増やして、在庫管理の経費をかける等、医療費を高くしてしまうという問題がある。

【0005】

また、輸液セットの品種を増やしてしまうと、品種の異なる輸液セットを使い分ける必要があり、その使用方法を間違える等のリスクが高くなるという欠点がある。

【0006】

しかも、患者の容態が急変した時等、予め準備しておいた予備ポートも一時的に不足することが起こる。

【0007】

この場合、投与している輸液を一度止めて、輸液ルートを閉塞した後、輸液ルートを開放し、三方活栓等を輸液ルートの途中に組み込む必要がある。この際、活栓を組み込んだ後、患者側の輸液ルート中に混入したエアーを抜くためにシリンジで吸引し、かつ、止めた側の輸液をプライミングして輸液ルート中のエアー溜まりをなくした後に輸液チューブを接続するという非常に手間と時間のかかる作業を行う必要がある。

【0008】

また、輸液ルートを繋ぎ違えたり、また、再度流量設定（投与速度の設定）を行う際に投与速度を間違えること等がある。

【0009】

また、患者側の輸液ルート中のエアーを抜くためにシリンジで吸引すると、患者に留置されたカテーテル内に患者の血液が逆流し、血液が凝固しやすくなり、血栓の原因を作ってしまう、このため、予定よりも早く留置カテーテルの交換を行わなければならない等、患者に悪影響を及ぼす。

【0010】

また、医療従事者の針刺し事故防止や、接続時の清潔性を保つために開発されたニードルレスコネクタがあるが、閉鎖回路を想定しているために、輸液ルートの途中で輸液チューブの接続個所を増やすことができず、このため、接続個所が不足する事態のときは、ニードルレスコネクタの設置された輸液ルートの先端部分から先を開放するという、閉鎖回路で清潔性を保って接続をするという特徴を著しく阻害する使用方法を取らざるを得ない。この場合も前記と同様に予め予備

ポートを多めに設けるという方法では、いくつの予備ポートを設ければよいかわからず、結局は足りなくなることとなる。すなわち、コストアップ、エア抜きの手間や時間、投与速度の設定ミスや血栓の原因の発生リスクは、前記と変わらない。

【0011】

【特許文献1】

特開平4-354952号公報

【0012】

【発明が解決しようとする課題】

本発明の目的は、容易かつ迅速に、輸液ライン（輸液ルート）を増設することができる輸液チューブおよび輸液チューブセットを提供することにある。

【0013】

【課題を解決するための手段】

このような目的は、下記（1）～（17）の本発明により達成される。

【0014】

（1） 輸液の流路を構成するチューブと、

前記チューブの一方の端部に設けられ、雄コネクタおよび雌コネクタを有するコネクタと、

前記チューブの他方に設けられ、輸液が収納された収納部側に接続される接続部とを備えることを特徴とする輸液チューブ。

【0015】

（2） 前記雄コネクタの軸と、前記雌コネクタの軸とが、略一致する上記（1）に記載の輸液チューブ。

【0016】

（3） 前記コネクタは、流路を切り換える流路切換機能を有する上記（1）または（2）に記載の輸液チューブ。

【0017】

（4） 前記コネクタは、前記チューブの内腔と、前記雄コネクタの内腔と、前記雌コネクタの内腔との連通パターンを選択し得るよう構成されている上記（

1) または (2) に記載の輸液チューブ。

【0018】

(5) 前記接続部は、輸液容器に接続される瓶針である上記 (1) ないし (4) のいずれかに記載の輸液チューブ。

【0019】

(6) 前記接続部は、シリンジに接続されるものである上記 (1) ないし (4) のいずれかに記載の輸液チューブ。

【0020】

(7) 前記チューブの途中に、輸液の流量を調節する流量調節手段を有する上記 (1) ないし (6) のいずれかに記載の輸液チューブ。

【0021】

(8) 前記チューブの途中に、前記接続部から前記コネクタへの流れを可能にし、かつ、その逆方向の流れを阻止する逆流阻止手段を有する上記 (1) ないし (7) のいずれかに記載の輸液チューブ。

【0022】

(9) 前記コネクタの前記雄コネクタは、前記雌コネクタと同形状の他の雌コネクタと液密に接続可能な形状をなしている上記 (1) ないし (8) のいずれかに記載の輸液チューブ。

【0023】

(10) 前記コネクタの前記雌コネクタは、前記雄コネクタと同形状の他の雄コネクタと液密に接続可能な形状をなしている上記 (1) ないし (9) のいずれかに記載の輸液チューブ。

【0024】

(11) 上記 (1) ないし (10) のいずれかに記載の少なくとも 1 つの輸液チューブと、

前記輸液チューブの前記コネクタの前記雄コネクタまたは前記雌コネクタと接続し得る輸液投与部側コネクタを有し、患者に対し、輸液を投与する輸液投与部とを備えることを特徴とする輸液チューブセット。

【0025】

(12) 前記輸液投与部は、除菌用のフィルターを有する上記(11)に記載の輸液チューブセット。

【0026】

(13) 前記除菌用のフィルターは、前記輸液投与部側コネクタより下流側に設けられている上記(12)に記載の輸液チューブセット。

【0027】

(14) 前記輸液投与部は、前記除菌用のフィルターの下流側に混注口を有する上記(12)または(13)に記載の輸液チューブセット。

【0028】

(15) 前記混注口は、前記輸液チューブの前記コネクタの前記雄コネクタまたは前記雌コネクタと接続し得る上記(14)に記載の輸液チューブセット。

【0029】

(16) 前記輸液投与部側コネクタに、一端側に輸液容器に接続される接続部を有するチューブの他端側が接続される上記(11)ないし(15)のいずれかに記載の輸液チューブセット。

【0030】

(17) 前記輸液投与部側コネクタは、一端側に前記輸液容器とは別の輸液容器に接続される接続部を有するチューブの他端側に設けられたコネクタと、前記輸液チューブのコネクタとを同時に接続し得るよう複数に分岐している上記(11)ないし(15)のいずれかに記載の輸液チューブセット。

【0031】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の輸液チューブおよび輸液チューブセットを添付図面に示す好適実施形態に基づいて詳細に説明する。

【0032】

図1は、本発明の輸液チューブセットの第1実施形態を示す平面図、図2は、図1に示す輸液チューブセットの一方の輸液チューブを接続した状態を示す平面図、図3は、図1に示す輸液チューブセットの各輸液チューブを接続した状態を示す平面図である。

【0033】

なお、説明の都合上、図1～図3において、図中の下側を「先端」、上側を「基端」として説明する。

【0034】

これらの図に示す輸液チューブセット（輸液セット）1は、生体（患者）に輸液を注入（投与）する装置（セット）である。

【0035】

輸液には、例えば、薬液、補正用電解質液、生理食塩水等、生体に投与し得るあらゆる液が含まれる。

【0036】

また、薬液中の薬剤の種類は、特に限定されず、例えば、鎮静薬、静脈麻酔薬、麻酔系鎮痛薬、局所麻酔薬、非脱分極性筋弛緩薬、昇圧薬、降圧薬、冠血管拡張薬、利尿薬、抗不整脈薬、気管支拡張薬、止血剤、ビタミン剤、抗生剤、脂肪乳剤等いかなるものでもよい。

【0037】

図1に示すように、輸液チューブセット1は、患者に対し、輸液を投与する輸液投与部2と、複数の輸液チューブ（本実施形態では、2つの輸液チューブ3a、3b）とを有している。以下、これらの各構成要素について順次説明する。

【0038】

輸液投与部2は、患者の血管110に留置される留置針またはカテーテル（本実施形態では、留置針21）と、この留置針またはカテーテル（本実施形態では、留置針21）の基端部に接続された輸液投与部側コネクタ22とを有している。

【0039】

留置針21（またはカテーテル）の構成材料としては、可撓性を有する高分子材料が好ましく、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン等のポリオレフィン、ポリエステル、ポリウレタン等の熱可塑性樹脂等が挙げられる。

【0040】

なお、留置針21（またはカテーテル）と輸液投与部側コネクタ22との間に

、図示しないチューブを設け、このチューブを介して、留置針 21（またはカテーテル）と輸液投与部側コネクタ 22 とを接続してもよい。この場合、輸液投与部側コネクタ 22 は、前記チューブの端部に設けられていてもよく、また、前記チューブの途中に設けられていてもよい。

【0041】

輸液投与部側コネクタ 22 としては、後述する輸液チューブ 3a、3b のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 または雌コネクタ 322 と接続し得る雌コネクタまたは雄コネクタを有しているものであれば、特に限定されないが、本実施形態では、三方活栓が用いられている。

【0042】

輸液投与部側コネクタ 22 は、2つの雌コネクタ 221、222 と、雄コネクタ 223 と、操作レバー（操作部） 224 とを有しており、この操作レバー 224 により、雌コネクタ 221 の内腔と、雌コネクタ 222 の内腔と、雄コネクタ 223 の内腔との連通パターンを選択し得るよう構成されている（流路を切り換える流路切換機能を有している）。

【0043】

すなわち、輸液投与部側コネクタ 22 は、雌コネクタ 221 の位置と、雌コネクタ 222 の位置と、雄コネクタ 223 の位置と、いずれのコネクタも無い位置（図 1 中左側の位置）との 4 箇所に、操作レバー 224 が移動し得るようになっており、操作レバー 224 を雌コネクタ 221 の位置に移動させると、雌コネクタ 222 の内腔と雄コネクタ 223 の内腔とが連通し、操作レバー 224 を雌コネクタ 222 の位置に移動させると、雌コネクタ 221 の内腔と雄コネクタ 223 の内腔とが連通し、操作レバー 224 を雄コネクタ 223 の位置に移動させると、雌コネクタ 221 の内腔と雌コネクタ 222 の内腔とが連通し、操作レバー 224 をいずれのコネクタも無い位置に移動させると、雌コネクタ 221 の内腔と雌コネクタ 222 の内腔と雄コネクタ 223 の内腔とがすべて連通するよう構成されている。

【0044】

また、雄コネクタ 223 の軸と、雌コネクタ 222 の軸とは、略一致し、雌コ

ネクタ 221 の軸は、これらの軸と略直交している。すなわち、雄コネクタ 223 と、雌コネクタ 222 とは、互いに反対方向を向いており、雌コネクタ 221 は、これら雄コネクタ 223 および雌コネクタ 222 に対し、略垂直な方向を向いている。

【0045】

また、雌コネクタ 221 および 222 は、それぞれ、後述する輸液チューブ 3a、3b のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 と液密に接続可能な形状をなしている。

【0046】

なお、本実施形態では、この輸液投与部側コネクタ 22 に対し、後述する輸液チューブ 3a、3b のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 を接続するようになっているが、例えば、輸液投与部側コネクタ 22 に対し、輸液チューブ 3a、3b のコネクタ 32 の雌コネクタ 322 を接続するように構成してもよく、また、輸液投与部側コネクタ 22 に対し、輸液チューブ 3a、3b のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 と雌コネクタ 322 とのいずれも接続し得るように構成してもよい。

【0047】

輸液投与部側コネクタ 22 に対し、輸液チューブ 3a、3b のコネクタ 32 の雌コネクタ 322 を接続する形態の場合には、例えば、輸液投与部側コネクタ 22 の雌コネクタ 221 および 222 を雄コネクタに変更し、その形状を輸液チューブ 3a、3b のコネクタ 32 の雌コネクタ 322 と液密に接続可能な形状とする。

【0048】

また、輸液投与部側コネクタ 22 に対し、輸液チューブ 3a、3b のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 と雌コネクタ 322 とのいずれも接続し得る形態の場合には、例えば、輸液投与部側コネクタ 22 の雌コネクタ 221 および 222 のうちのいずれか一方を雄コネクタに変更し、その形状を輸液チューブ 3a、3b のコネクタ 32 の雌コネクタ 322 と液密に接続可能な形状とする。

【0049】

留置針 21 は、その基端部に、出口ポート 211 を有しており、この出口ポー

ト 2 1 1 に、前記輸液投与部側コネクタ 2 2 の雄コネクタ 2 2 3 が液密に接続されている。

【0050】

次に、輸液チューブ 3 a および 3 b を説明するが、これら輸液チューブ 3 a と輸液チューブ 3 b との構成は同様であるので、代表的に、一方の輸液チューブ 3 a を説明する。

【0051】

輸液チューブ 3 a は、可撓性（柔軟性）を有し、輸液の流路を構成するチューブ 3 1 と、チューブ 3 1 の一方の端部（先端部）に設けられたコネクタ（分岐管） 3 2 と、チューブ 3 1 の他方（本実施形態では、他方の端部（基端部））に設けられ、輸液が収納された輸液バッグ（輸液容器）（収納部） 4 側に接続される接続部として、鋭利な針先を有する瓶針 3 5 とを備えている。

【0052】

また、チューブ 3 1 の途中には、輸液の流量を調節する流量調節手段として、ローラークレンメ（ローラー型のクレンメ） 3 3 と、点滴筒 3 4 とが、それぞれ、設けられている。

【0053】

輸液バッグ 4 内には、所定の輸液が収納されており、瓶針 3 5 がこの輸液バッグ 4 の栓（ゴム栓）を穿通（穿刺）すると、瓶針 3 5 を介し、輸液バッグ 4 と輸液チューブ 3 a とが接続され、輸液バッグ 4 から輸液チューブ 3 a 側へ輸液が供給され得る状態となる。

【0054】

点滴筒 3 4 は、瓶針 3 5 の近傍に設置されている。この点滴筒 3 4 により、輸液の流量を目視で確認することができる。

【0055】

ローラークレンメ 3 3 は、コネクタ 3 2 と点滴筒 3 4 との間に設置されている。

【0056】

このローラークレンメ 3 3 は、クレンメ本体 3 3 1 と、クレンメ本体 3 3 1 に

対して移動可能に設置されたローラー（操作部）332とで構成されており、ローラー332の外周面と、クレンメ本体331の所定角度で傾斜した底面（傾斜面）との間にチューブ31を挟み、クレンメ本体331に対し、ローラー332を移動させることによって、前記チューブ31を挟む度合いが変化し、これにより輸液の流量を調節するようになっている。

【0057】

すなわち、ローラー332を所定方向に移動させると、前記チューブ31を挟む度合いが大きくなり、輸液の流量が少なくなる。そして、最後まで移動させると、チューブ31の内腔が閉塞し、輸液は流れなくなる。

【0058】

一方、ローラー332を前記と逆方向に移動させると、前記チューブ31を挟む度合いが小さくなり、輸液の流量が多くなる。そして、最後まで移動させると、チューブ31の内腔が全開となり、輸液の流量は最大となる。

【0059】

コネクタ32としては、雄コネクタおよび雌コネクタを有しているものであれば、特に限定されないが、本実施形態では、三方活栓が用いられている。

【0060】

コネクタ32は、2つの雌コネクタ321、322と、雄コネクタ323と、操作レバー（操作部）324とを有しており、この操作レバー324により、雌コネクタ321の内腔と、雌コネクタ322の内腔と、雄コネクタ323の内腔との連通パターンを選択し得るよう構成されている（流路を切り換える流路切換機能を有している）。

【0061】

すなわち、コネクタ32は、雌コネクタ321の位置と、雌コネクタ322の位置と、雄コネクタ323の位置と、いずれのコネクタも無い位置（図1中下側の位置）との4箇所に、操作レバー324が移動し得るようになっており、操作レバー324を雌コネクタ321の位置に移動させると、雌コネクタ322の内腔と雄コネクタ323の内腔とが連通し、操作レバー324を雌コネクタ322の位置に移動させると、雌コネクタ321の内腔と雄コネクタ323の内腔とが

連通し、操作レバー 3 2 4 を雄コネクタ 3 2 3 の位置に移動させると、雌コネクタ 3 2 1 の内腔と雌コネクタ 3 2 2 の内腔とが連通し、操作レバー 3 2 4 をいずれのコネクタも無い位置に移動させると、雌コネクタ 3 2 1 の内腔と雌コネクタ 3 2 2 の内腔と雄コネクタ 3 2 3 の内腔とがすべて連通するよう構成されている。

【0062】

また、雄コネクタ 3 2 3 の軸と、雌コネクタ 3 2 2 の軸とは、略一致し、雌コネクタ 3 2 1 の軸は、これらの軸と略直交している。すなわち、雄コネクタ 3 2 3 と、雌コネクタ 3 2 2 とは、互いに反対方向を向いており、雌コネクタ 3 2 1 は、これら雄コネクタ 3 2 3 および雌コネクタ 3 2 2 に対し、略垂直な方向を向いている。

【0063】

チューブ 3 1 の先端部には、図示しない雄コネクタが設けられており、この雄コネクタは、前記コネクタ 3 2 の雌コネクタ 3 2 1 に液密に接続されている。なお、チューブ 3 1 の先端部が、直接、雌コネクタ 3 2 1 に接合されていてもよい。

【0064】

ここで、コネクタ 3 2 の雄コネクタ 3 2 3 は、雌コネクタ 3 2 2 と同形状の他の雌コネクタと液密に接続可能な形状をなしている。

【0065】

これにより、輸液チューブ 3 a のコネクタ 3 2 の雄コネクタ 3 2 3 を、他の輸液チューブのコネクタの雌コネクタ（例えば、輸液チューブ 3 b のコネクタ 3 2 の雌コネクタ 3 2 2）に液密に接続させることができる。

【0066】

また、コネクタ 3 2 の雌コネクタ 3 2 2 は、雄コネクタ 3 2 3 と同形状の他の雄コネクタと液密に接続可能な形状をなしている。

【0067】

これにより、他の輸液チューブのコネクタの雄コネクタ（例えば、輸液チューブ 3 b のコネクタ 3 2 の雄コネクタ 3 2 3）を、輸液チューブ 3 a のコネクタ 3

2の雌コネクタ322に液密に接続させることができる。

【0068】

このようにして、どの輸液チューブのコネクタ32も他の輸液チューブのコネクタ32に接続することができる（コネクタ32同士をいくつでも接続させることができる）。すなわち、例えば、輸液チューブ3aのコネクタ32に輸液チューブ3bコネクタ32を接続し、輸液チューブ3bのコネクタ32に他の輸液チューブのコネクタ32を接続し、以下、同様に、次々に、他の輸液チューブのコネクタ32を接続することができる。

【0069】

なお、コネクタ32は、本実施形態では、三方活栓であるが、本発明では、雄コネクタおよび雌コネクタを有するコネクタであれば、これに限定されず、例えば、雄コネクタおよび雌コネクタを有するニードルレスのコネクタ等、流路を切り換える機能を有していないものであってもよい。

【0070】

チューブ31の構成材料としては、例えば、軟質ポリ塩化ビニル、エチレン酢酸ビニル共重合体、ポリブタジエン等、あるいはこれらを主とする材料が挙げられる。

【0071】

次に、輸液チューブセット1の作用（使用方法）を説明する。

ここでは、輸液チューブ3aを、患者に輸液を投与するための第1輸液ライン（第1輸液ルート）、すなわち、主に、基本液等が流される輸液チューブとし、輸液チューブ3bを、患者に輸液を投与するための第2輸液ライン（第2輸液ルート）、すなわち、主に、副ルートとして用い、例えば、脂肪乳剤、治療薬、抗生剤等が流される輸液チューブとする場合を例に挙げて説明する。

【0072】

輸液チューブ3aを接続するにあたり、まず、輸液バッグ4に、例えば維持輸液剤を調剤する。

【0073】

次に、図1に示すように、この輸液の収納された輸液バッグ4の栓（ゴム栓）

に輸液チューブ 3 a の瓶針 3 5 を穿通（穿刺）する。これにより、瓶針 3 5 を介し、輸液バッグ 4 と輸液チューブ 3 a とが接続され、輸液バッグ 4 から輸液チューブ 3 a 側へ輸液が供給され得る状態となる。

次に、輸液チューブ 3 a の流路をプライミングする。

【0074】

次に、図 2 に示すように、患者の血管（例えば、末梢静脈等）110 に留置された留置針 21 の出口ポート 211 に接続された輸液投与部側コネクタ 22 の雌コネクタ 221 に、輸液チューブ 3 a のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 を挿入し、嵌合させる。これにより、輸液投与部側コネクタ 22 の雌コネクタ 221 と輸液チューブ 3 a のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 とが液密に接続される。

【0075】

次に、輸液投与部側コネクタ 22 の操作レバー 224 を雌コネクタ 222 の位置に移動させ、また、輸液チューブ 3 a のコネクタ 32 の操作レバー 324 を雌コネクタ 322 の位置に移動させる。これにより、輸液投与部側コネクタ 22 の雌コネクタ 221 の内腔と雄コネクタ 223 の内腔とが連通し、また、輸液チューブ 3 a のコネクタ 32 の雌コネクタ 321 の内腔と雄コネクタ 323 の内腔とが連通する。

【0076】

次に、輸液チューブ 3 a のローラークレンメ 33 を操作し、輸液チューブ 3 a の輸液の流量（投与速度）を維持輸液剤の指示流量（指示投与速度）に調節し、その輸液を投与する。

【0077】

なお、輸液チューブ 3 a のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 を、輸液投与部側コネクタ 22 の雌コネクタ 222 に接続してもよい。

【0078】

また、輸液投与部側コネクタ 22 を省略し、輸液チューブ 3 a のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 を、留置針 21 の出口ポート 211 に接続してもよい。

【0079】

次に、患者の容態によって、一定時間の間隔をおいて、例えば抗生剤を投与す

るために用いる輸液チューブ 3 b を接続するにあたり、まず、輸液バッグ 4 に抗生剤を溶解した生理食塩水を調剤する。

【0080】

次に、図 2 に示すように、この輸液の収納された輸液バッグ 4 の栓（ゴム栓）に輸液チューブ 3 b の瓶針 3 5 を穿通（穿刺）する。これにより、瓶針 3 5 を介し、輸液バッグ 4 と輸液チューブ 3 b とが接続され、輸液バッグ 4 から輸液チューブ 3 b 側へ輸液が供給され得る状態となる。

次に、輸液チューブ 3 b の流路をプライミングする。

【0081】

次に、図 3 に示すように、輸液チューブ 3 a のコネクタ 3 2 の雌コネクタ 3 2 2 に、輸液チューブ 3 b のコネクタ 3 2 の雄コネクタ 3 2 3 を挿入し、嵌合させる。これにより、輸液チューブ 3 a のコネクタ 3 2 の雌コネクタ 3 2 2 と輸液チューブ 3 b のコネクタ 3 2 の雄コネクタ 3 2 3 とが液密に接続される。

【0082】

次に、輸液チューブ 3 b のコネクタ 3 2 の操作レバー 3 2 4 を雌コネクタ 3 2 2 の位置に移動させる。これにより、輸液チューブ 3 b のコネクタ 3 2 の雌コネクタ 3 2 1 の内腔と雄コネクタ 3 2 3 の内腔とが連通する。

【0083】

次に、輸液チューブ 3 a のコネクタ 3 2 の操作レバー 3 2 4 をいずれのコネクタも無い位置に移動させる。これにより、輸液チューブ 3 a のコネクタ 3 2 の雌コネクタ 3 2 1 の内腔と雌コネクタ 3 2 2 の内腔と雄コネクタ 3 2 3 の内腔とがすべて連通する。

【0084】

次に、輸液チューブ 3 b のローラークレンメ 3 3 を操作し、輸液チューブ 3 b の輸液の流量（投与速度）を抗生剤の指示流量（指示投与速度）に調節し、その輸液を投与する。

【0085】

このようにして、輸液チューブ 3 a から維持輸液剤を、輸液チューブ 3 b から抗生剤を溶解した生理食塩水を、それぞれ、患者に投与することができる（混注

することができる)。

【0086】

また、輸液ライン（輸液ルート）を増設する場合には、前記と同様にして、輸液チューブ3bのコネクタ32の雌コネクタ322に、図示しない他の輸液チューブのコネクタ32の雄コネクタ323を挿入し、嵌合させる。これにより、輸液チューブ3aのコネクタ32の雌コネクタ322と他の輸液チューブのコネクタ32の雄コネクタ323とが液密に接続される。

以下、同様にして、輸液ラインをいくつでも増設することができる。

【0087】

なお、前記輸液チューブセット1の使用方法は、一例であり、これに限定されるものではない。

【0088】

例えば、輸液を輸液チューブ3aから患者に投与している場合において、輸液チューブ3bにより、その補充を行ってもよい。

【0089】

以上説明したように、この輸液チューブセット1によれば、常に、輸液チューブの接続用のポート（雌コネクタ322）が存在するので、容易、迅速かつ確実に、輸液ライン（輸液ルート）を増設することができる。

【0090】

すなわち、常に、輸液チューブの接続用のポート（雌コネクタ322）が存在するので、例えば、患者の容態の急変時等に輸液チューブの接続ポートが足りなくなることがない。

【0091】

また、輸液ラインを増設する際は、一方のコネクタ32の雄コネクタ323を他方のコネクタ32の雌コネクタ322へ挿入し、嵌合させるだけでよいので、既に接続されている輸液チューブから輸液を投与（例えば、薬剤を微量投与）しつつ、輸液ラインを増設することができる。これにより、例えば、血中の薬剤濃度が変化して、症状に変化が出るリスクを回避することができる。

【0092】

また、輸液ラインを増設する際は、輸液ラインを開放して再度組み立てて接続し直す必要がない。これにより、輸液ラインの繋ぎ違いや細菌によるルート汚染の機会が増大する等のリスクを回避することができる。

【0093】

なお、本発明では、輸液チューブセットにおける輸液チューブの数は、1つでもよく、また、3つ以上でもよい。

【0094】

また、本発明では、輸液チューブセットが複数の輸液チューブを有する場合、その輸液チューブは、すべて同一でもよく、また、すべて異なっているでもよく、また、一部のみ同一でもよい。

【0095】

また、本発明では、例えば、図4に示すように、前記輸液チューブセット1の輸液チューブ3aを、輸液チューブ3cに変更してもよい。

【0096】

この輸液チューブセット1では、輸液チューブ3cのチューブ31の一方の端部（先端部）に、図示しない雄コネクタが設けられており、この雄コネクタは、輸液投与部側コネクタ22の雌コネクタ222に液密に接続されている。なお、チューブ31の先端部が、直接、雌コネクタ222に接合されていてもよい。

【0097】

次に、本発明の輸液チューブの他の実施形態について説明する。

図5および図6は、それぞれ、本発明の輸液チューブの他の実施形態を示す平面図である。

【0098】

以下、前述した輸液チューブ3a、3bとの相違点を中心に説明し、同様の事項については、その説明を省略する。

【0099】

図5に示す輸液チューブ3dは、チューブ31の途中に、瓶針（接続部）35からコネクタ32への流れを可能にし、かつ、その逆方向の流れを阻止する逆流阻止手段として、逆止弁36を有している。

【0100】

この逆止弁36は、コネクタ32とローラークレンメ33との間に設置されている。また、この逆止弁36は、コネクタ32の近傍に設置されているのが好ましい。

【0101】

逆止弁36は、その内部に、図示しない一对の板状の開閉部材が形成された弁本体を有し、各開閉部材は、弾性力（復元力）により互いに密着し、これにより、逆止弁36内の流路は、閉塞している。輸液流が先端側から基端側に向いている場合には、その輸液により圧力が各開閉部材の外面にかかり、開閉部材同士を密着させるように作用する。このため、輸液は、先端側から基端側には流れない。

【0102】

一方、輸液流が基端側から先端側に向いている場合には、その輸液により所定の圧力が各開閉部材の基端側（テーパ面）にかかり、その圧力により各開閉部材が離間する方向に変位し、逆止弁36内の流路が開通する。これにより、輸液は、基端側から先端側に流れる。

【0103】

この輸液チューブ3dによれば、コネクタ32が流路切換機能を有していない場合でも、輸液チューブ3dのコネクタ32に接続された図示しない他の輸液チューブ（例えば、後述する輸液チューブ3e）からある程度の圧力を加えて輸液を投与しても、逆止弁36により、その輸液が輸液チューブ3dの上流側（基端側）へ流れ込むのを防止することができ、確実に、輸液を患者へ投与することができる。

【0104】

また、この輸液チューブ3dによれば、前述した輸液チューブ3a、3bと同様の効果が得られる。

【0105】

図6に示す輸液チューブ3eは、チューブ31の基端部に、輸液が収納されたシリンジ（収納部）5側に接続される接続部として、シリンジ5の先端部（口部

) に接続される雌コネクタ 37 を有している。

【0106】

また、チューブ 31 の途中には、輸液の流量を調節する流量調節手段として、例えば、微量調節用のオリフィス等を設けてもよい。

【0107】

この輸液チューブ 3e によれば、前述した輸液チューブ 3a、3b と同様の効果が得られる。

【0108】

また、輸液チューブ 3e は、チューブ 31 の途中に、コネクタ（接続部）37 からコネクタ 32 への流れを可能にし、かつ、その逆方向の流れを阻止する逆流阻止手段として、逆止弁 36 を有していてもよい。

この逆止弁 36 は、コネクタ 32 の近傍に設置されているのが好ましい。

【0109】

なお、逆止弁 36 の構造や作用は、前述した図 5 に示す輸液チューブ 3d の逆止弁 36 と同様であるので、その説明は、省略する。

【0110】

この逆止弁 36 を有することにより、コネクタ 32 が流路切換機能を有していない場合でも、輸液チューブ 3e のコネクタ 32 に接続された図示しない他の輸液チューブからある程度の圧力を加えて輸液を投与しても、逆止弁 36 により、その輸液が輸液チューブ 3e の上流側（基端側）へ流れ込むのを防止することができる。つまり、確実に、輸液を患者へ投与することができる。

【0111】

以上述べた各輸液チューブ 3a、3b、3d および 3e は、それぞれ、前述した輸液チューブセット 1 において、単独で、または任意の 2 以上を組み合わせる用いることができる。

【0112】

次に、本発明の輸液チューブセットの第 2 実施形態について説明する。

図 7 は、本発明の輸液チューブセットの第 2 実施形態を示す平面図、図 8 は、図 7 に示す輸液チューブセットの一方の輸液チューブを接続した状態を示す平面

図、図 9 は、図 7 に示す輸液チューブセットの各輸液チューブを接続した状態を示す平面図である。

【0113】

以下、第 2 実施形態の輸液チューブセット 1 について、前述した第 1 実施形態との相違点を中心に説明し、同様の事項については、その説明を省略する。

【0114】

これらの図に示す第 2 実施形態の輸液チューブセット 1 は、輸液投与部 2 が異なっていること以外は、前述した第 1 実施形態と同様である。

【0115】

すなわち、第 2 実施形態の輸液チューブセット 1 は、図 1 に示すように、輸液投与部 2 と、前述した第 1 実施形態と同様の輸液チューブ 3 b、3 c および 3 e とを有している。

【0116】

輸液投与部 2 は、患者の血管 110 に留置される留置針またはカテーテル（本実施形態では、カテーテル 23）と、この留置針またはカテーテル（本実施形態では、カテーテル 23）の基端部に接続されたコネクタ（本実施形態では、三方活栓）24 と、可撓性（柔軟性）を有し、輸液の流路を構成するチューブ 25 と、チューブ 25 の先端部に設けられた雄コネクタ 26 と、チューブ 25 の基端部に設けられたコネクタ（本実施形態では、三方活栓）27 と、輸液投与部側コネクタ（本実施形態では、三方活栓）28 と、除菌用のフィルター 29 とを備えている。

【0117】

なお、留置針またはカテーテルとコネクタ 24 とは、チューブを介して接続してもよい。

【0118】

コネクタ 24 は、2 つの雌コネクタ 241、242 と、雄コネクタ 243 と、操作レバー（操作部）244 とを有しており、この操作レバー 244 により、雌コネクタ 241 の内腔と、雌コネクタ 242 の内腔と、雄コネクタ 243 の内腔との連通パターンを選択し得るよう構成されている（流路を切り換える流路切換

機能を有している)。

【0119】

カテーテル23は、その基端部に、出口ポート231を有しており、この出口ポート231に、前記コネクタ24の雄コネクタ243が液密に接続されている。

【0120】

また、チューブ25の先端部に設けられた雄コネクタ26は、前記コネクタ24の雌コネクタ241に液密に接続されている。

【0121】

輸液投与部側コネクタ28は、3つの雌コネクタ281、282、283と、操作レバー（操作部）284とを有しており、この操作レバー284により、雌コネクタ281の内腔と、雌コネクタ282の内腔と、雌コネクタ283の内腔との連通パターンを選択し得るよう構成されている（流路を切り換える流路切換機能を有している）。

【0122】

同様に、コネクタ27は、3つの雌コネクタ271、272、273と、操作レバー（操作部）274とを有しており、この操作レバー274により、雌コネクタ271の内腔と、雌コネクタ272の内腔と、雌コネクタ273の内腔との連通パターンを選択し得るよう構成されている（流路を切り換える流路切換機能を有している）。

【0123】

なお、前記コネクタ24、27および輸液投与部側コネクタ28の詳細は、前述した第1実施形態の輸液投与部側コネクタ22と略同様であるので、その説明は、省略する。

【0124】

図1に示すように、輸液チューブ3cのチューブ31の先端部には、雄コネクタ38が設けられており、この雄コネクタ38は、前記輸液投与部側コネクタ28の雌コネクタ282に液密に接続されている。

【0125】

また、除菌用のフィルター 29 は、輸液投与部側コネクタ 28 より下流側に設けられており、コネクタ 27 は、フィルター 29 の下流側に設けられている。

【0126】

すなわち、フィルター 29 の一端側（下流側）は、コネクタ 27 の雌コネクタ 272 に液密に接続され、他端側（上流側）は、輸液投与部側コネクタ 28 の雌コネクタ 283 に液密に接続されている。

【0127】

前記コネクタ 27 の雌コネクタ 271 は、例えば、前記輸液チューブ 3b、3e 等が接続される混注口を構成する。

【0128】

輸液チューブ 3b、3e のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 は、それぞれ、患者に輸液を投与する際、その輸液が、フィルター 29 を通過させてよい輸液やフィルター 29 を通過させなければならない輸液の場合には、輸液投与部側コネクタ 28 の雌コネクタ 282、または、この輸液投与部側コネクタ 28 に接続されたコネクタ 32 の雌コネクタ 322 に接続され、フィルター 29 を通過させてはならない輸液の場合には、コネクタ 27 の雌コネクタ 272、または、このコネクタ 27 に接続されたコネクタ 32 の雌コネクタ 322 に接続される。

【0129】

なお、本実施形態では、このコネクタ 27 に対し、例えば、前記輸液チューブ 3b、3e 等のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 を接続するようになっているが、例えば、コネクタ 27 に対し、輸液チューブ 3b、3e のコネクタ 32 の雌コネクタ 322 を接続するように構成してもよく、また、コネクタ 27 に対し、輸液チューブ 3b、3e のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 と雌コネクタ 322 とのいずれも接続し得るように構成してもよい。

【0130】

コネクタ 27 に対し、輸液チューブ 3b、3e のコネクタ 32 の雌コネクタ 322 を接続する形態の場合には、例えば、コネクタ 27 の雌コネクタ 271 を雄コネクタに変更し、その形状を輸液チューブ 3b、3e のコネクタ 32 の雌コネクタ 322 と液密に接続可能な形状とする。

【0131】

次に、輸液チューブセット1の作用（使用方法）を説明する。

ここでは、輸液チューブ3cを、患者に輸液を投与するための第1輸液ライン（第1輸液ルート）、すなわち、主に、高カロリー輸液や基本液等が流される輸液チューブとし、輸液チューブ3bを、患者に輸液を投与するための第2輸液ライン（第2輸液ルート）、すなわち、主に、副ルートとして用い、例えば、脂肪乳剤、治療薬、抗生剤等が流される輸液チューブとし、輸液チューブ3eを、患者に輸液を投与するための第3輸液ライン（第3輸液ルート）、すなわち、主に、副ルートとして用い、例えば、微量の治療薬等が流される輸液チューブとする場合を例に挙げて説明する。

【0132】

輸液チューブ3cを接続するにあたり、まず、輸液バッグ4に、例えば高カロリー輸液を調剤する。

【0133】

次に、図7に示すように、この輸液の収納された輸液バッグ4の栓（ゴム栓）に輸液チューブ3cの瓶針35を穿通（穿刺）する。これにより、瓶針35を介し、輸液バッグ4と輸液チューブ3cとが接続され、輸液バッグ4から輸液チューブ3c側へ輸液が供給され得る状態となる。

【0134】

次に、輸液投与部側コネクタ28の操作レバー284を雌コネクタ281の位置に移動させ、また、輸液チューブ3bのコネクタ32の操作レバー324を雌コネクタ322の位置に移動させ、また、コネクタ27の操作レバー274を雌コネクタ271の位置に移動させ、また、コネクタ24の操作レバー244を雌コネクタ241の位置に移動させる。これにより、輸液投与部側コネクタ28の雌コネクタ282の内腔と雌コネクタ283の内腔とが連通し、また、輸液チューブ3bのコネクタ32の雌コネクタ321の内腔と雄コネクタ323の内腔とが連通し、また、コネクタ27の雌コネクタ272の内腔と雌コネクタ273の内腔とが連通し、また、コネクタ24の雌コネクタ242の内腔と雄コネクタ243の内腔とが連通する。

【0135】

次に、輸液チューブ3cの流路をプライミングする。

次に、患者の血管（例えば、中心静脈等）110に留置されたカテーテル23側の輸液投与部側コネクタ28の雌コネクタ282に、輸液チューブ3cの雄コネクタ38を挿入し、嵌合させる。これにより、輸液投与部側コネクタ28の雌コネクタ282と輸液チューブ3cの雄コネクタ38とが液密に接続される。

【0136】

これにより、フィルター29を介して患者に高カロリー輸液を投与することができる。

【0137】

次に、輸液チューブ3cのローラークレンメ33を操作し、輸液チューブ3cの輸液の流量（投与速度）を高カロリー輸液の指示流量（指示投与速度）に調節し、その輸液を投与する。

【0138】

次に、例えば抗生剤を投与するために用いる輸液チューブ3bを接続するにあたり、まず、輸液バッグ4に抗生剤を溶解した生理食塩水を調剤する。

【0139】

次に、図7に示すように、この輸液の収納された輸液バッグ4の栓（ゴム栓）に輸液チューブ3bの瓶針35を穿通（穿刺）する。これにより、瓶針35を介し、輸液バッグ4と輸液チューブ3bとが接続され、輸液バッグ4から輸液チューブ3b側へ輸液が供給され得る状態となる。

次に、輸液チューブ3bの流路をプライミングする。

【0140】

次に、図8に示すように、輸液投与部側コネクタ28の雌コネクタ281に、輸液チューブ3bのコネクタ32の雄コネクタ323を挿入し、嵌合させる。これにより、輸液投与部側コネクタ28の雌コネクタ281と輸液チューブ3bのコネクタ32の雄コネクタ323とが液密に接続される。

これにより、フィルター29を介して患者に抗生剤を投与することができる。

【0141】

次に、輸液投与部側コネクタ 28 の操作レバー 284 をいずれのコネクタも無い位置に移動させる。これにより、輸液投与部側コネクタ 28 の雌コネクタ 281 の内腔と雌コネクタ 282 の内腔と雌コネクタ 283 の内腔とがすべて連通する。

【0142】

次に、輸液チューブ 3b のローラークレンメ 33 を操作し、輸液チューブ 3b の輸液の流量（投与速度）を抗生剤の指示流量（指示投与速度）に調節し、その輸液を投与する。

【0143】

次に、患者の容態によって、一定時間の間隔において、例えばニトログリセリンを投与するために用いる輸液チューブ 3e を接続するにあたり、まず、図 9 に示すように、シリンジ 5 内にニトログリセリンを吸引し、収納する。

【0144】

次に、シリンジ 5 の先端部（口部）に雌コネクタ 37 を挿入し、嵌合する。これにより、シリンジ 5 の先端部と雌コネクタ 37 とが液密に接続され、シリンジ 5 から輸液チューブ 3e 側へ輸液が供給され得る状態となる。

次に、図示しないシリンジポンプにシリンジ 5 をセットする。

【0145】

次に、輸液チューブ 3e のコネクタ 32 の操作レバー 324 を雌コネクタ 322 の位置に移動させる。これにより、輸液チューブ 3e のコネクタ 32 の雌コネクタ 321 の内腔と雄コネクタ 323 の内腔とが連通する。

次に、輸液チューブ 3e の流路をプライミングする。

【0146】

次に、図 9 に示すように、輸液チューブ 3b のコネクタ 32 の雌コネクタ 322 に、輸液チューブ 3e のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 を挿入し、嵌合させる。これにより、輸液チューブ 3b のコネクタ 32 の雌コネクタ 322 と輸液チューブ 3e のコネクタ 32 の雄コネクタ 323 とが液密に接続される。

【0147】

これにより、フィルター 29 を介して患者にニトログリセリンを投与すること

ができる。

【0148】

次に、輸液チューブ3bのコネクタ32の操作レバー324をいずれのコネクタも無い位置に移動させる。これにより、輸液チューブ3bのコネクタ32の雌コネクタ321の内腔と雌コネクタ322の内腔と雄コネクタ323の内腔とがすべて連通する。

【0149】

次に、シリンジポンプ側の操作部を操作し、輸液チューブ3cの輸液の流量（投与速度）をニトログリセリンの指示流量（指示投与速度）に調節し、その輸液を投与する。

【0150】

このようにして、輸液チューブ3cから高カロリー輸液を、輸液チューブ3bから抗生剤を溶解した生理食塩水を、輸液チューブ3eからニトログリセリンを、それぞれ、患者に投与することができる（混注することができる）。

【0151】

この輸液チューブセット1によれば、前述した第1実施形態と同様の効果が得られる。

【0152】

以上、本発明の輸液チューブおよび輸液チューブセットを、図示の実施形態に基づいて説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、各部の構成は、同様の機能を有する任意の構成のものに置換することができる。

【0153】

なお、本発明は、前記各実施形態のうちの、任意の2以上の構成（特徴）を組み合わせたものであってもよい。

【0154】

また、本発明の輸液チューブセットは、輸液投与部のうちの一部、例えば、留置針やカテーテル等を有していないものであってもよい。すなわち、輸液投与部は、輸液投与部側コネクタを有していればよい（例えば、輸液投与部側コネクタのみで構成されていてもよい）。

【0155】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、容易、迅速かつ確実に、輸液ライン（輸液ルート）を増設することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の輸液チューブセットの第1実施形態を示す平面図である。

【図2】

図1に示す輸液チューブセットの一方の輸液チューブを接続した状態を示す平面図である。

【図3】

図1に示す輸液チューブセットの各輸液チューブを接続した状態を示す平面図である。

【図4】

本発明の輸液チューブセットの第1実施形態における変形例を示す平面図である。

【図5】

本発明の輸液チューブの他の実施形態を示す平面図である。

【図6】

本発明の輸液チューブの他の実施形態を示す平面図である。

【図7】

本発明の輸液チューブセットの第2実施形態を示す平面図である。

【図8】

図7に示す輸液チューブセットの一方の輸液チューブを接続した状態を示す平面図である。

【図9】

図7に示す輸液チューブセットの各輸液チューブを接続した状態を示す平面図である。

【符号の説明】

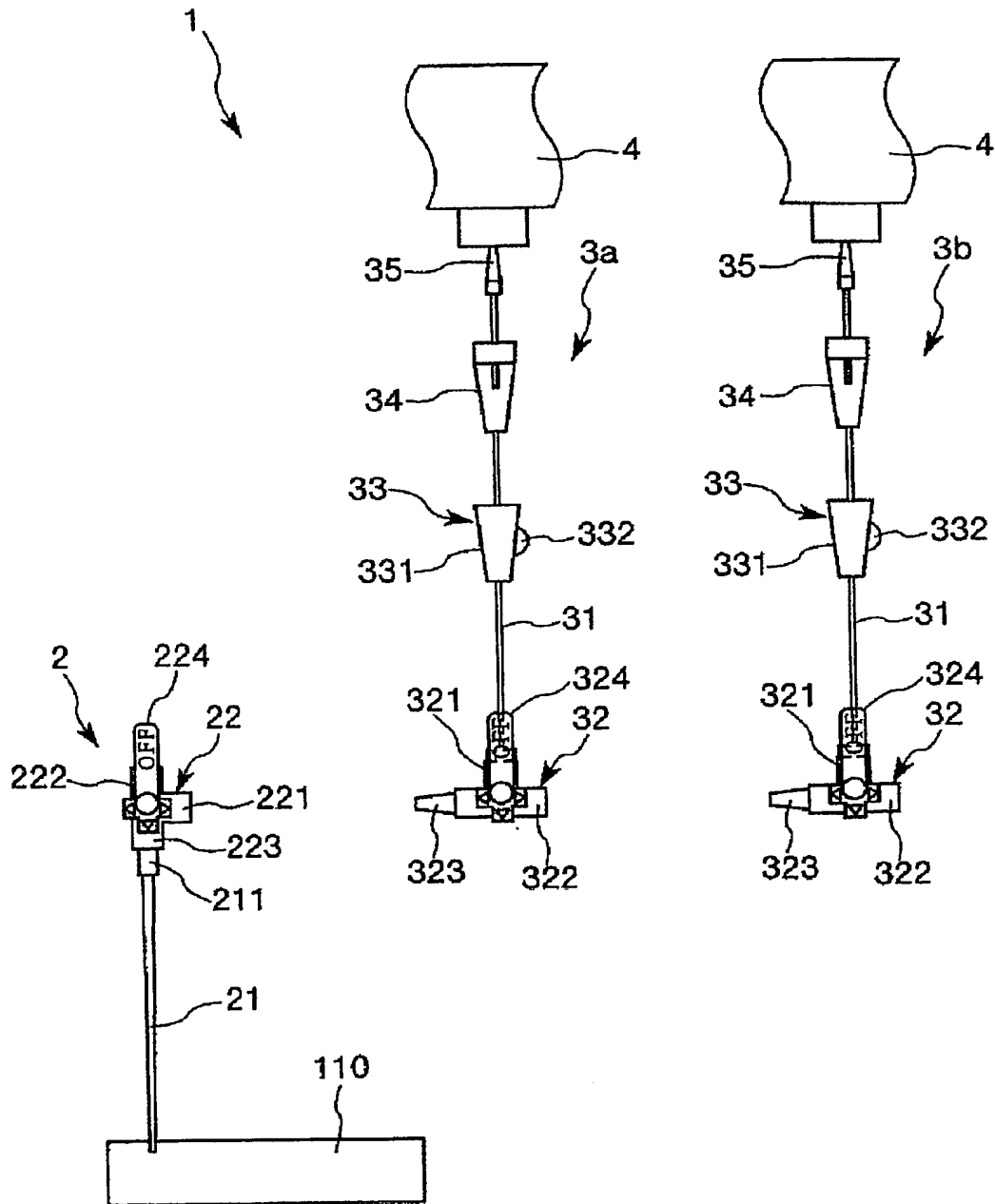
- 1 輸液チューブセット
- 2 輸液投与部
 - 2 1 留置針
 - 2 1 1 出口ポート
 - 2 2 輸液投与部側コネクタ
 - 2 2 1、2 2 2 雌コネクタ
 - 2 2 3 雄コネクタ
 - 2 2 4 操作レバー
 - 2 3 カテーテル
 - 2 3 1 出口ポート
 - 2 4 コネクタ
 - 2 4 1、2 4 2 雌コネクタ
 - 2 4 3 雄コネクタ
 - 2 4 4 操作レバー
 - 2 5 チューブ
 - 2 6 雄コネクタ
 - 2 7 コネクタ
 - 2 7 1～2 7 3 雌コネクタ
 - 2 7 4 操作レバー
 - 2 8 輸液投与部側コネクタ
 - 2 8 1～2 8 3 雌コネクタ
 - 2 8 4 操作レバー
 - 2 9 除菌用のフィルター
- 3 a～3 e 輸液チューブ
 - 3 1 チューブ
 - 3 2 コネクタ
 - 3 2 1、3 2 2 雌コネクタ
 - 3 2 3 雄コネクタ
 - 3 2 4 操作レバー

3 3	ローラークレンメ
3 3 1	クレンメ本体
3 3 2	ローラー
3 4	点滴筒
3 5	瓶針
3 6	逆止弁
3 7	雌コネクタ
3 8	雄コネクタ
4	輸液バッグ
5	シリンジ
1 1 0	血管

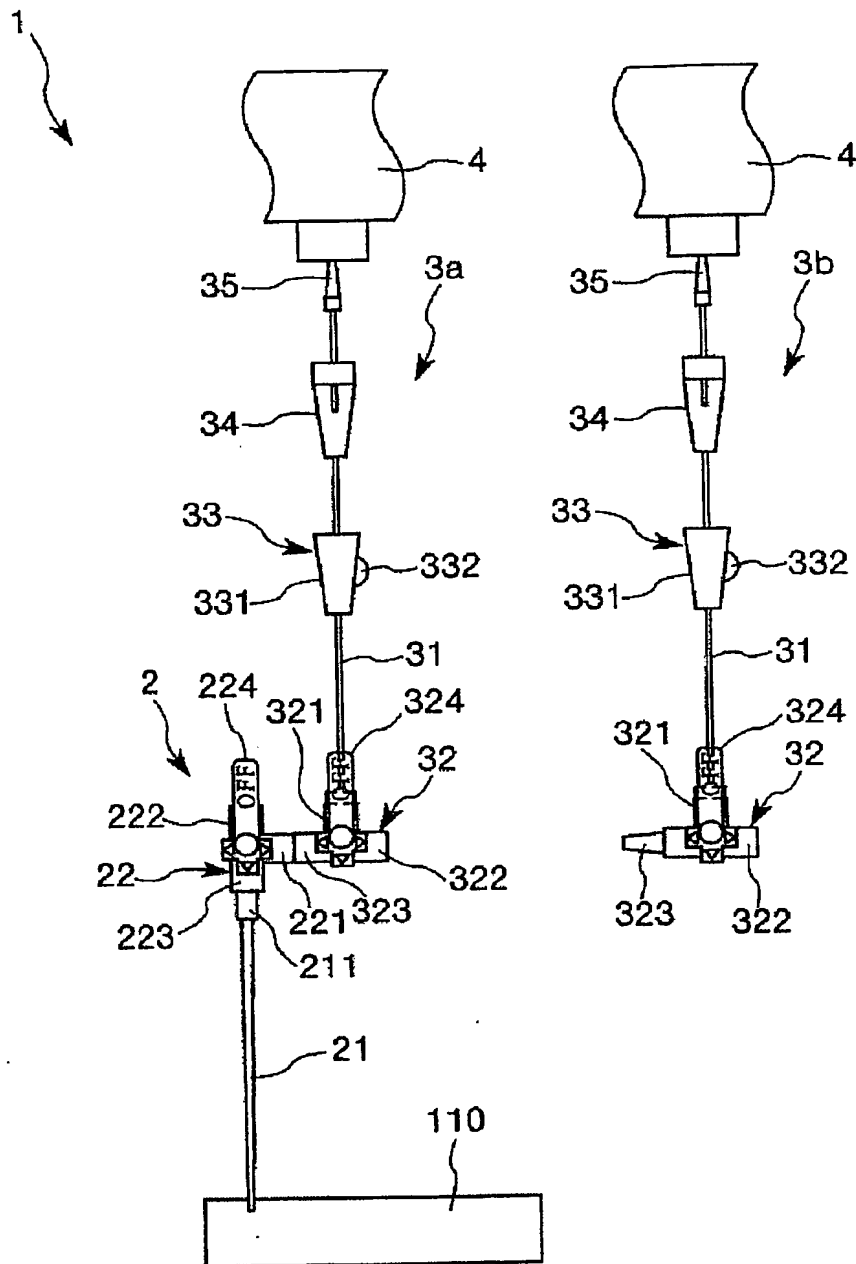
【書類名】

図面

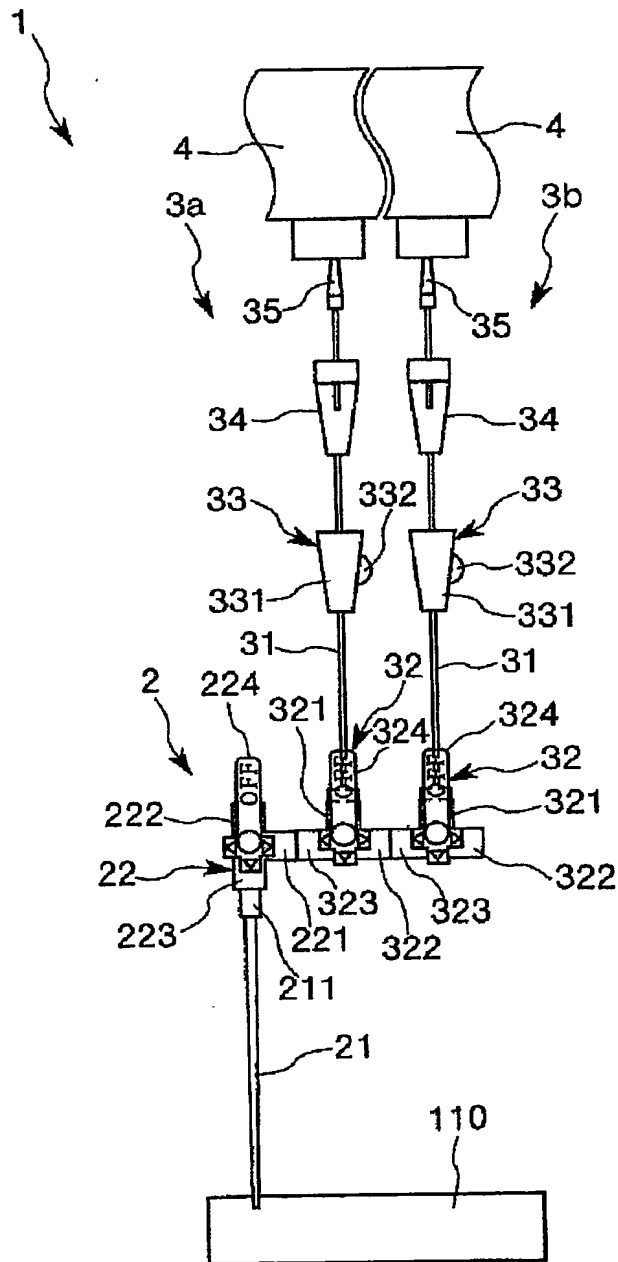
【図 1】



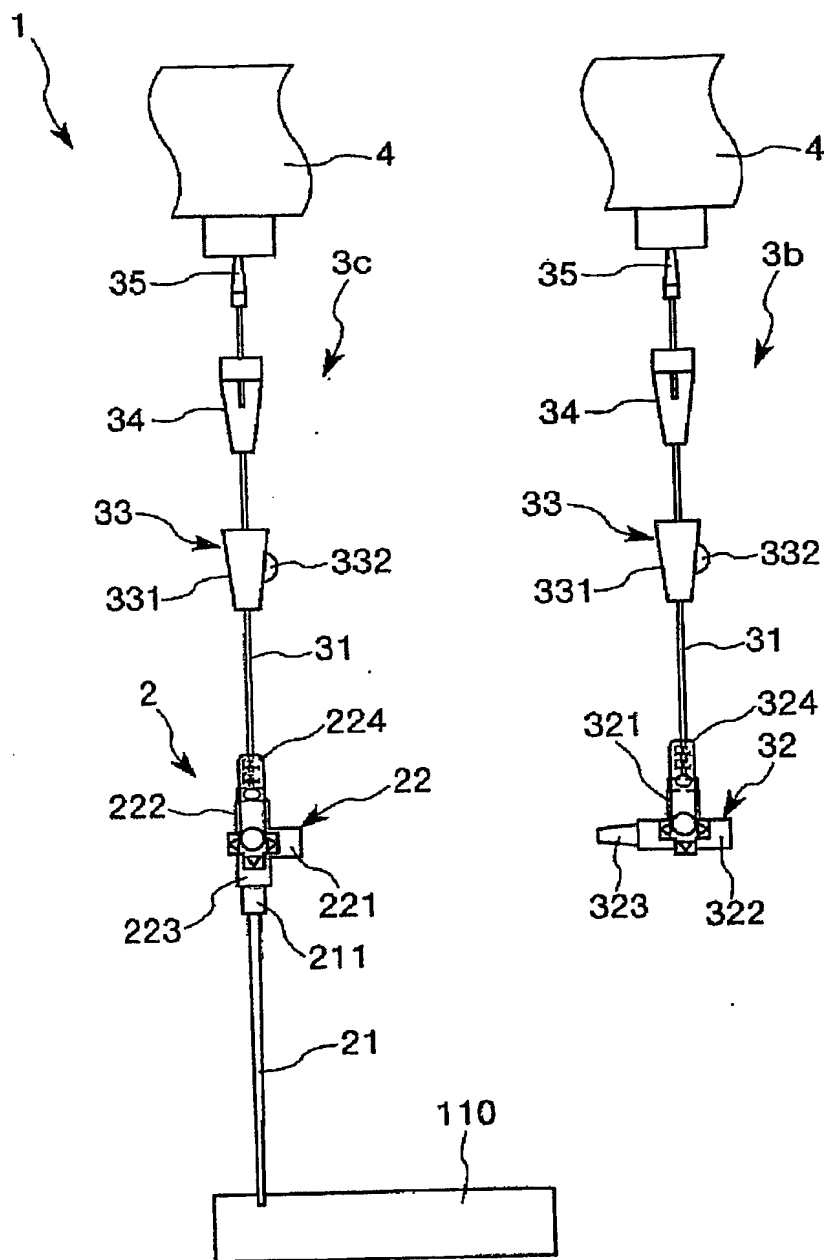
【図 2】



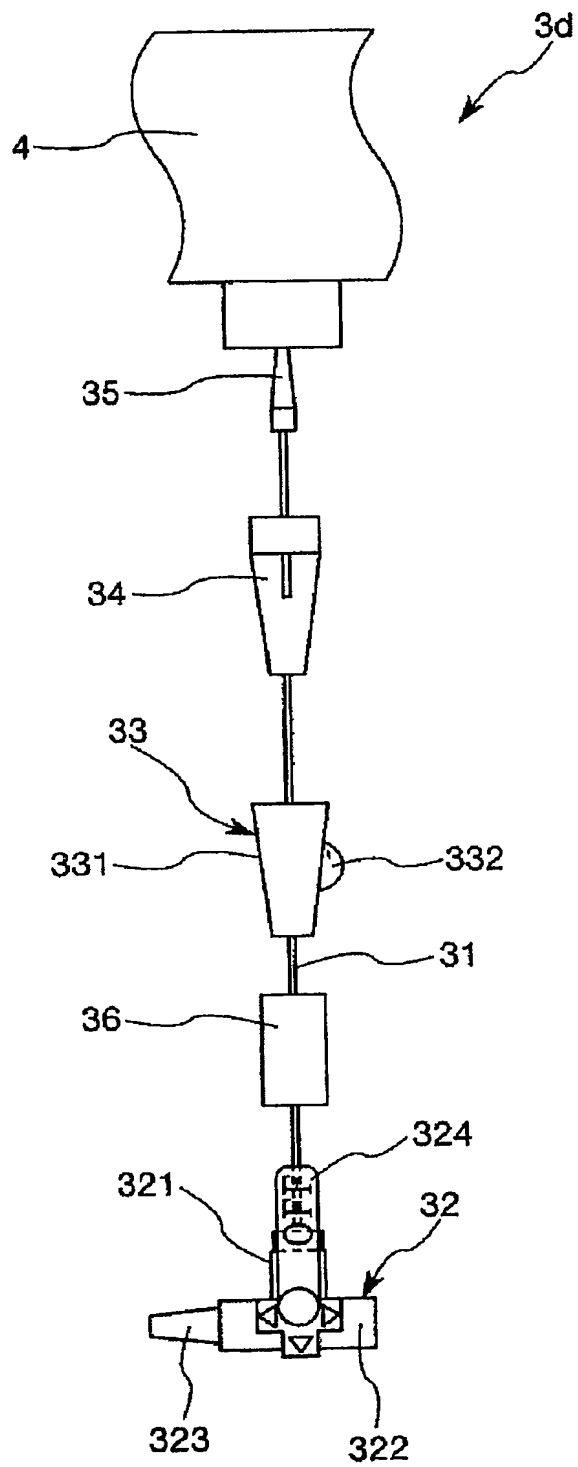
【図 3】



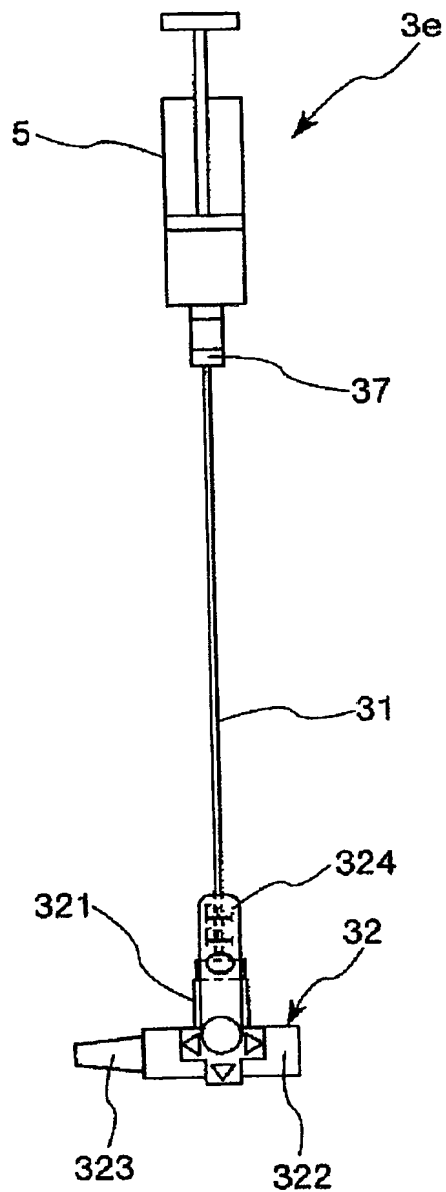
【図4】



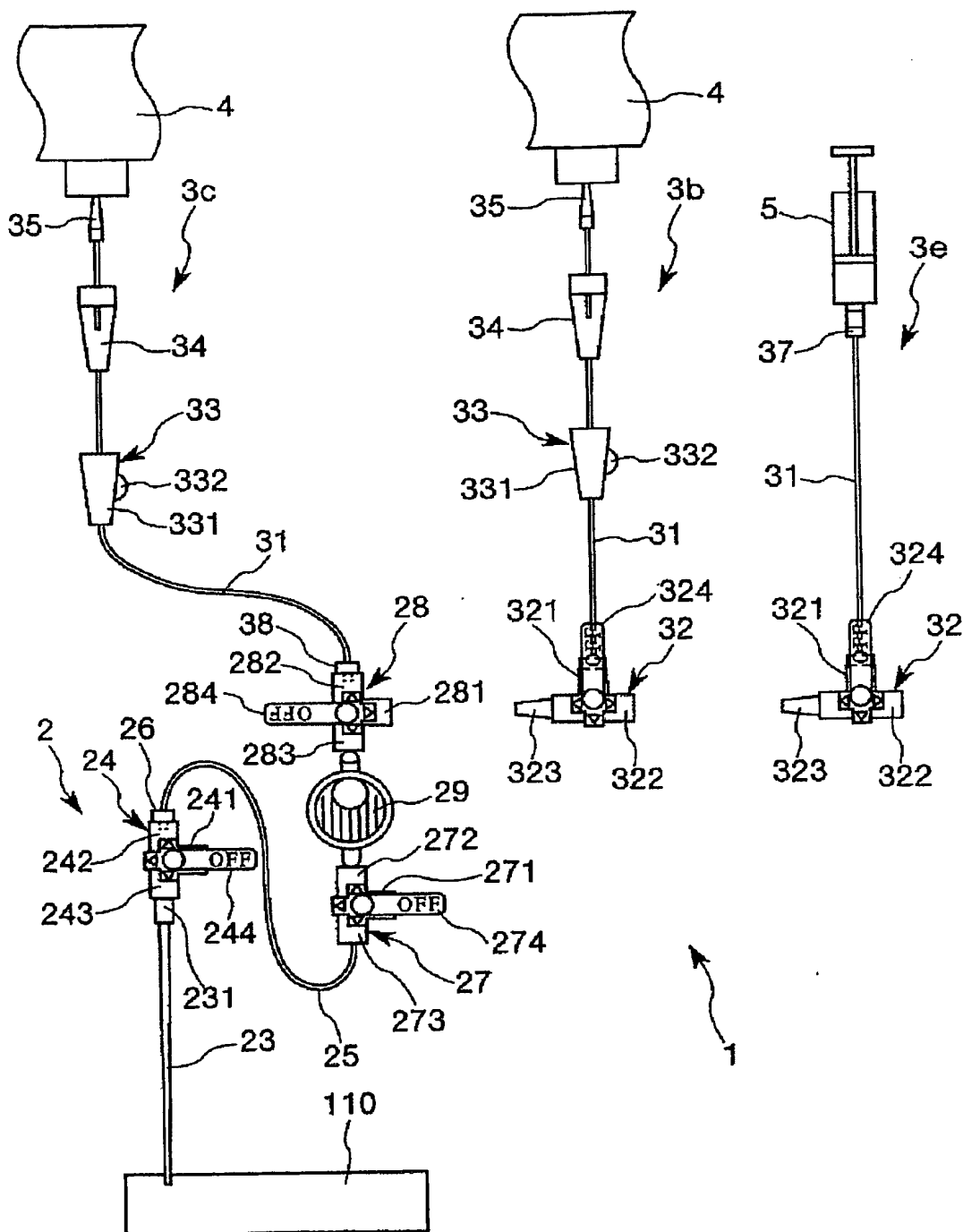
【図 5】



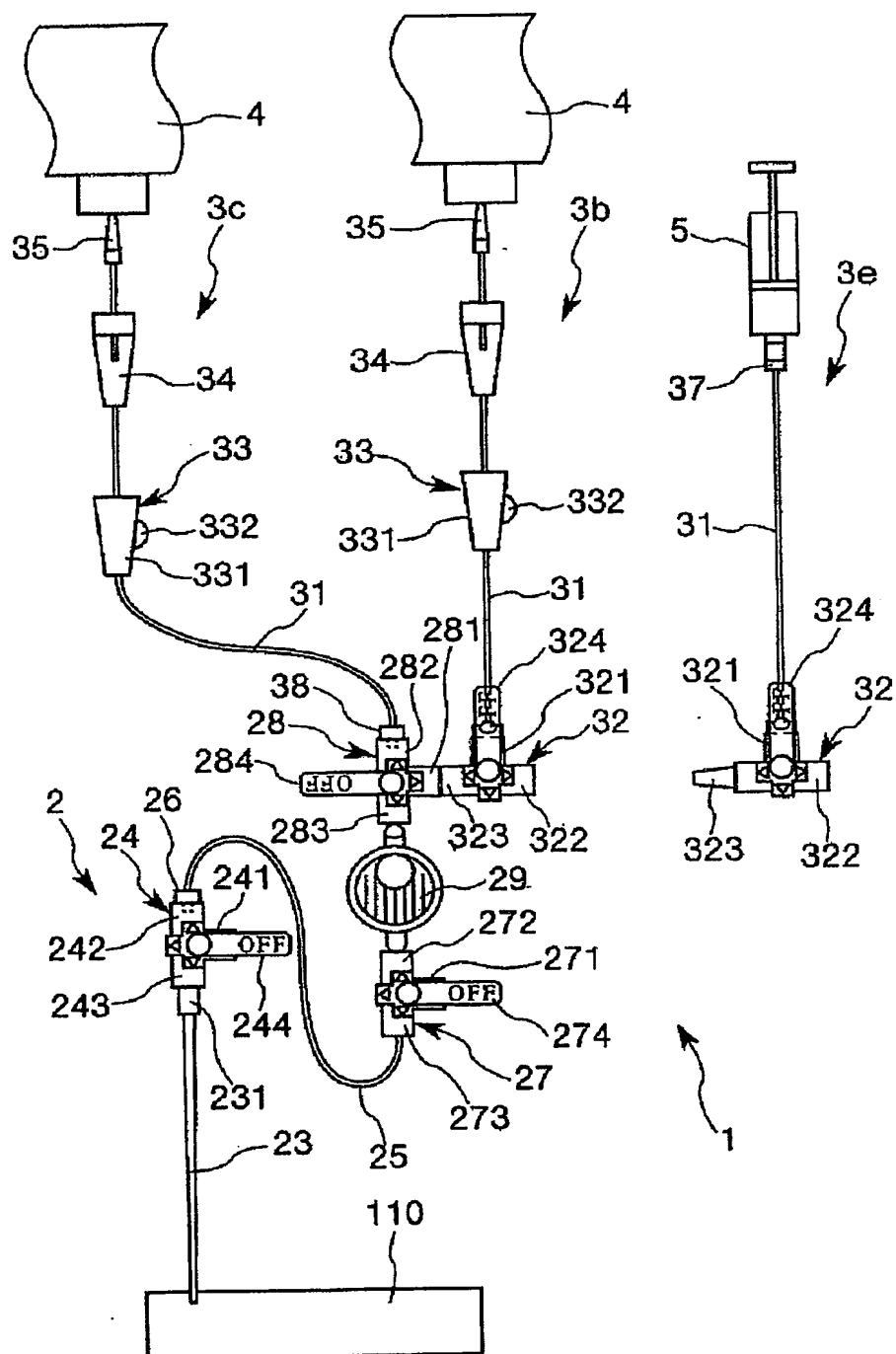
【図 6】



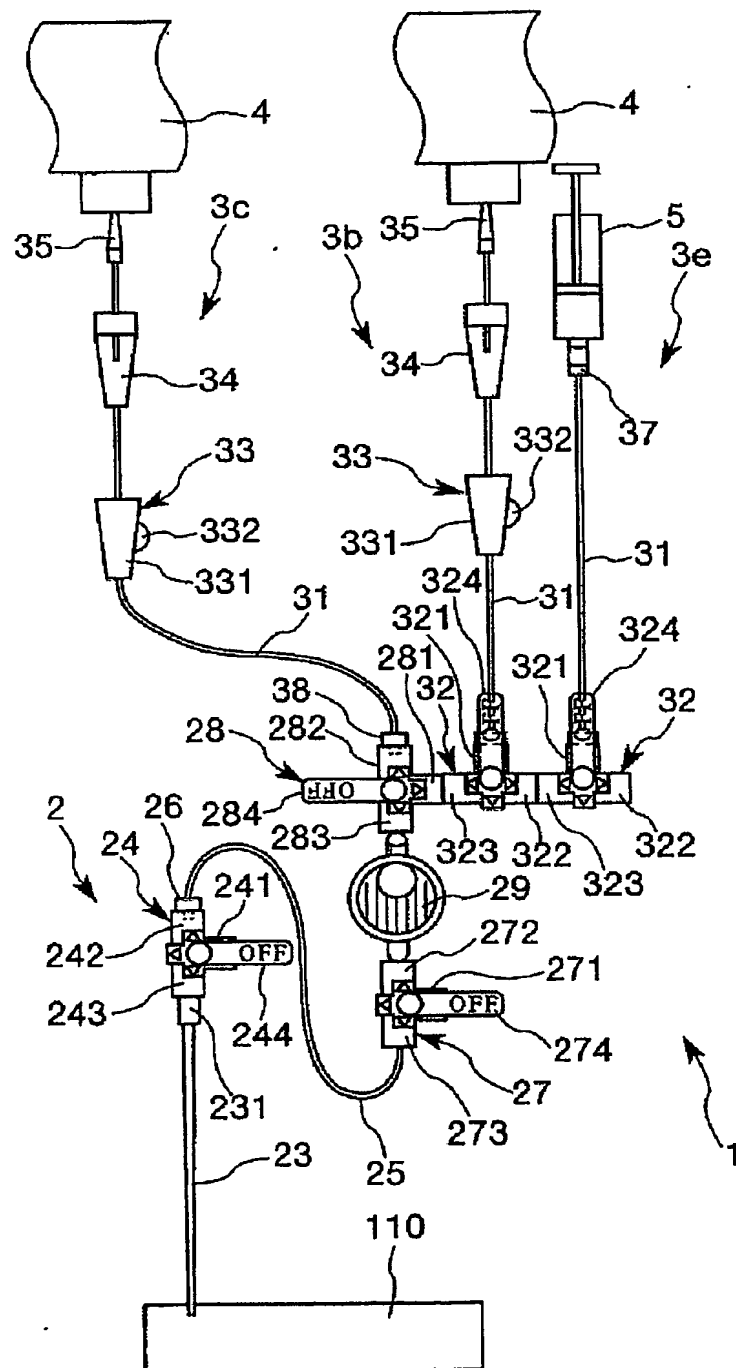
【図7】



【図8】



【図 9】



【書類名】 要約書**【要約】**

【課題】 容易かつ迅速に、輸液ライン（輸液ルート）を増設することができる輸液チューブおよび輸液チューブセットを提供する。

【解決手段】 輸液チューブ 3 a は、可撓性（柔軟性）を有し、輸液の流路を構成するチューブ 3 1 と、チューブ 3 1 の一方の端部（先端部）に設けられたコネクタ（分岐管） 3 2 と、チューブ 3 1 の他方の端部（基端部）に設けられ、輸液が収納された輸液バッグ 4 側に接続される、鋭利な針先を有する瓶針 3 5 とを備えている。また、チューブ 3 1 の途中には、ローラークレンメ 3 3 と、点滴筒 3 4 とが、それぞれ設けられている。コネクタ 3 2 は、2つの雌コネクタ 3 2 1、3 2 2 と、雄コネクタ 3 2 3 と、操作レバー 3 2 4 とを有しており、この操作レバー 3 2 4 により、雌コネクタ 3 2 1 の内腔と、雌コネクタ 3 2 2 の内腔と、雄コネクタ 3 2 3 の内腔との連通パターンを選択し得るよう構成されている。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2002-342442
受付番号	50201785005
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成14年11月27日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成14年11月26日

次頁無

特願 2 0 0 2 - 3 4 2 4 4 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 1 0 9 5 4 3]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 1 1 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 4 番 1 号

氏 名

テルモ株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☒ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☒ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☒ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☒ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.